

令和7年度 徳島県立名西高等学校（定時制課程）学校評価 総括評価表

1. 学校教育目標

- (1)心身ともに健全で人間尊重と助け合いの精神に満ちた、社会に貢献できる人間の育成に努める。
- (2)勤労と学業の両立を図り、進んで諸問題を解決しようとする自主的・自発的な姿勢を持つ人間の育成を図る。
- (3)生徒と教師相互の温かい人間関係を深めるとともに、個別指導の一層の充実を図り、基礎学力の向上に努める。
- (4)家庭と学校との連携を密にし、規則正しい生活習慣の確立と就労の指導を推進し、望ましい生活態度の育成に努める。
- (5)命を大切にする教育を推進し、交通安全教育に努める。

2. 本年度の重点目標

- (1)基本的生活習慣の確立を図る生徒指導を充実する。
- (2)勤労と学業の両立を図り、社会で自立する能力や態度を育成する。
- (3)自他を大切にする心や態度を育成する。
- (4)防災・安全教育の徹底と環境教育を推進する。
- (5)主権者教育・消費者教育・情報教育を推進する。

徳島県立名西高等学校定時制課程

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		
「基本的生活習慣 の確立」 「社会で自立する 能力や態度の育 成」	(全校レベル)	評価指標	評価基準による達成度	総合評価	
	I) 個に応じた支援を実 践し、生活習慣の確立 と基礎学力の向上を図 る。 (下位組織レベル) ① キャリア教育を推進す る中で、生徒の進路意 識を明確にし、学習能 力・態度を高める。 [進路課・生徒課] ② わかる授業を実践する とともに、個々の生徒 の学力について共通理 解を図り、支援の方策 を探る。 [教務課・ 進路課・各教科]	I) 授業出席率90%以上。 (R6 92.6%) 遅刻する生徒の割合5%以下。(R6 1.9%) ①-1 進路指導における関連機関等と連携し、 進路講演会等のキャリア教育行事を実施。 年間2回以上。 (R6 実施回数3回)		(評定)	
		①-2 アルバイト等校外での活動をしている生 徒の割合60%以上。 (R6 70%)		(所見)	
		②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのI CT機器を活用した授業の割合90%以上。 (R6 89%)			
		②-2 授業評価、学校生活に関するアンケート 等の結果を基におこなう学力検討会の実施 回数。年間5回以上。 (R6 実施回数5回)			
		③-3 教員相互の授業参観。各学期に1回以上 (R6 各学期に1回実施)			
		②-4 授業評価による生徒の理解度・満足度の 向上。理解度80%以上、満足度90%以上。 (R6 理解度75.8% 満足度84.6%)			

	③ 読書習慣を定着させ、情報活用能力を育む。 [教務課・特別活動課・情報科]	③ ホームルーム活動等で図書室を利用する。 各クラス年間3回以上				
		活動計画 I) 生徒の実態について共通理解を図り、個に応じた支援を検討し、実践する。 ①-1 生徒の進路実現に向けて、進路講演会等のキャリア教育行事を系統的に実施する。 ①-2 アルバイト等校外での活動を推奨し、社会性を身につけさせる。 ②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器の積極的・効果的な活用を心掛け、主体的で対話的な授業を目指す。 ②-2 学力検討会を実施し、生徒の学力について共通理解を図り、支援の方策を探る。 ②-3 教員相互に授業参観を行い、他教科における生徒の理解度を把握し、授業改善に役立てる。 ②-4 授業評価の結果を分析し、授業方法の改善やわかる授業の実践に役立てる。 ③ 生徒が読書にいそむ習慣づくりに努め、図書館の利用促進をはかる。	活動計画の実施状況			
「自他を大切にする心や態度の育成」 「主権者意識や防災意識の高揚」	(全校レベル) I) 生徒の人間関係構築力や社会性の育成を図り、自他を守る社会規範を身に付けさせる。 (下位組織レベル) ① 異年齢間の交流や社会体験などを多く経験させる。 [各学年・特活課] ② 校外での活動を推奨し、地域との繋がりを感じさせる。	評価指標 I) 4月に比べ、よりよい人間関係を構築でき、社会性が向上したと考える生徒の割合。 90%以上 (R6 80%) ① 学校行事への満足度80%以上。(R6 92.3%) エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上80%以上。 (R6 理解度90% 満足度93.3%) ② 地域に貢献するボランティア活動の実施。 年間2回以上。 (R6 実施回数1回) ③ 生徒の状況についてケース会議など、共通理解を図る機会の設定。 ④ 学校全体でいじめを許さない雰囲気づくりを行い、アンケート実施により現状把握を	評価基準による達成度	総合評価 (評定) (所見)		

	[各学年・特活課] ③ 個に応じた指導を実践する。 [各学年・特別支援コーディネーター]	行う。(R6 いじめ発生件数1件) ⑤ 人権問題に対する意識が向上し、態度や行動に移せたと回答した生徒の割合60%以上。 (R6 86.7%)			
		⑥ 防災訓練・避難訓練の実施年間3回以上。 (R6 4回)			
		⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合。 80%以上 (R6 76.7%)			
	④ いじめを防止する。 [各学年・生徒課] ⑤ さまざまな人権問題に対する意識を向上させる。 [各学年・人権教育課] ⑥ 防災教育を充実させる。 [各学年・環境教育課] ⑦ 主権者意識を高める教育を推進する。 [公民科・各教科]	活動計画	活動計画の実施状況		
		I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を図り、人間関係構築力や社会性の育成を目指した指導を実践する。			
		① 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させる。			
		② 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。			
		③ 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒について共通理解を図る機会を設けるとともに、SCの助言等を仰ぎながら、個に応じた指導が実践できるようにする。			
		④ いじめに関するホームルーム活動を行い、アンケートを実施する。			
		⑤ 人権問題に関するホームルーム活動や講演会等の行事を系統的に行い、アンケートを実施する。			
		⑥ 停電時を想定した訓練など、夜間定時制における効果的な防災訓練や避難訓練を実施する。			
		⑦ 公民科を中心として各教科の授業や学校行事で主権者教育を実施する。			